

令和7年2月7日

世田谷区立多聞小学校
学校運営委員会 委員長 佐々木 浩様
校長 小泉 一弘 様

世田谷区立多聞小学校 学校関係者評価委員会
委員長 中村 徳子

令和6年度 学校関係者評価委員会 報告書

世田谷区立多聞小学校学校関係者評価委員会は、よりよい教育活動が展開されるよう、外部アンケートならびに学校自己評価点検をもとに、本年度の教育活動全般を評価し、次年度の改善に向けた報告書を作成しました。

学校及び学校運営委員会においては、これら報告を客観的に分析し、今後の対策を検討してください。

1. 評価資料概要

1.1. 外部アンケート

対象 保護者・児童（5・6年）・地域

調査実施日 令和6年10月15日～10月31日

配布数 児童 221件 保護者 721件 地域 40件

回答数 児童 203件 保護者 469件 地域 19件

・ 回収率 児童 92% 保護者 65% 地域 48%

1.2. 学校自己評価点検

対象 本校全教員 38名

2. 外部アンケートの概況

外部アンケートの全項目について、回答選択肢、A「とてもそう思う」B「思う」C「あまり思わない」D「思わない」E「分からない」のそれぞれの割合を求め、回答選択肢 A「とても思う」B「思う」のパーセンテージの合計を肯定的評価とし、C「あまり思わない」D「思わない」の合計を否定的評価とした。

委員会では、本調査結果に加え、授業参観や行事への参加、ヒアリング、ホームページ閲覧などを行い、その結果を世田谷区教育委員会作成の「学校評価システム」の評価項目に基づき、令和6年度多聞小学校の学校経営計画より、以下に示した「目指す学校像」「重点目標」に沿って報告する。

2.1. 令和6年度 学校経営計画

令和6年度 多聞小学校 学校経営計画より

I 目指す学校像 『誰にでも居場所がある学校』

一人一人が個性を発揮して活動に取り組む ➡ 達成感・充実感を味わう

➡ 自己肯定感を高める ➡ 主体的実践意欲がたかまる

II 重点目標

- ① 考える子ども…すすんで学び、他者との交流を通して深めた考えを表現する子ども
- ② 助け合う子ども…他者の思いに共感し、思いやり、助け合う人間性豊かな子ども
- ③ たくましい子ども…心身ともに健康で、粘り強く課題に立ち向かう子ども

2.2. 児童アンケート回答結果について

【回収率について】

今年度の回収率は92%と、昨年度の78.5%を13.5ポイント上回った。教員による回収確認がしっかりしていることによる上昇であり、今後も引き続き回収確認をお願いしたい。

【アンケート評価について】

21のアンケート項目のうち、11項目で80%以上の児童が肯定的評価をした。肯定的評価80%未満が10項目、50%未満が1項目だった。

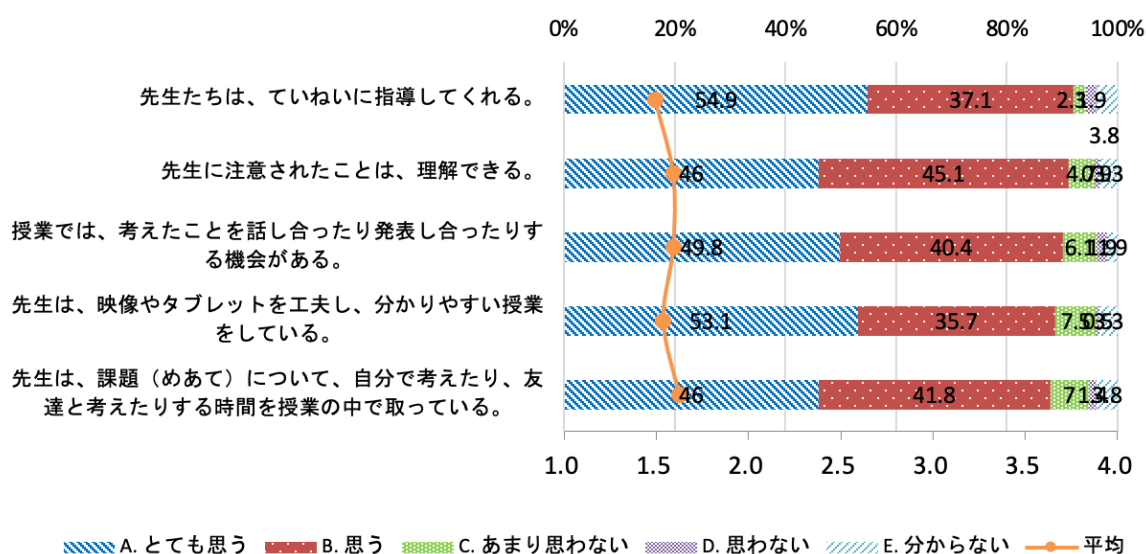
① 昨年度より肯定的回答の数値が上がった項目（5項目）

- ・「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」では肯定的評価が88.8%と昨年度87.3%より1.5ポイント上昇している。タブレットでの授業が日常的に行われるようになり、昨年と同様に高い数字を示している。
- ・「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している。」では肯定的評価が84.5%と昨年度82.9%より1.6ポイント上昇している。
- ・「先生に注意されたことは理解できる。」では肯定的評価が91.1%と昨年度84.9%と昨年度より6.2ポイント上昇している。これらのことから、教員と児童の信頼関係ができていることが窺える。
- ・「学校が好き。」（昨年度に比して2.8ポイント上昇）
- ・「私は塾で学習している。」（昨年度に比して2.0ポイント上昇）

② 肯定的回答が多かった項目（85%以上）

- ・教員の丁寧な指導や、教員による注意を理解できるなど、児童の教員に対する信頼が高いことが伺える。また考えたことを話しあったり自主的に考えるような授業が展開されていることがわかる。

肯定的回答（「とても思う」「思う」）の多かった項目



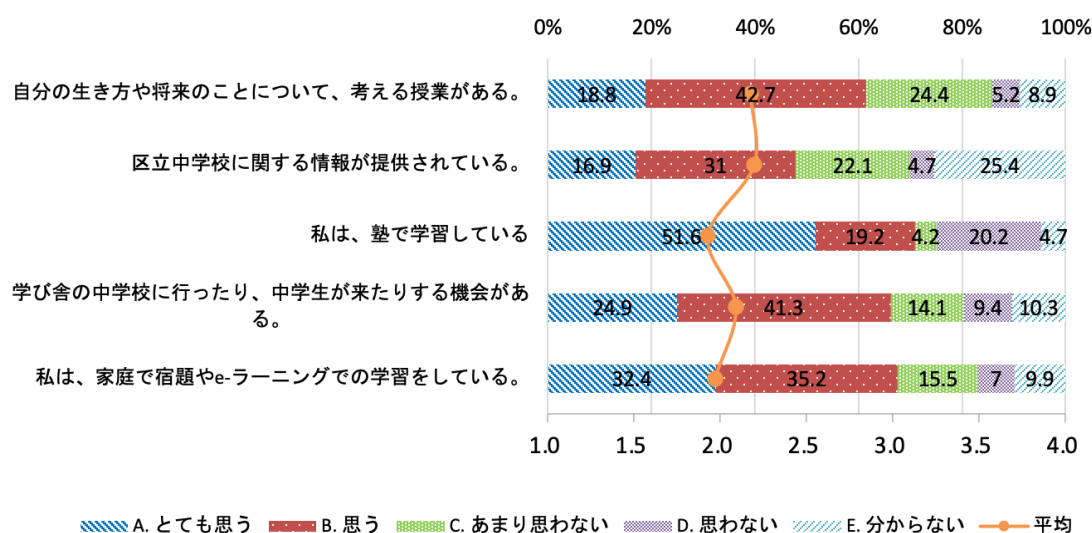
③ 昨年度より肯定的回答の数値が大幅に下がった項目（2 項目）

- ・「目標をもち、その実現に向けて努力している。」では肯定的評価が 76.6%と昨年度 87.3%に比して 10.7 ポイント下がった。これは、質問の「目標」に対して「学習」や「将来の夢」など具体的な内容がないことから、回答が難しかったのではないのかと考えられる。
- ・「区立中学校に関する情報提供がされている。」では肯定的評価が 47.9%と昨年度 64.9%より 17 ポイント下降した。区立中学校に進学する意思が年々薄まっている傾向があるとみられ、情報提供されていても興味がない可能性が考えられる。しかし、部活、学校の雰囲気、制服など中学校の情報を必要としている児童がいるため、今後も情報提供が継続されることが望まれる。

④ 否定的回答が多かった項目

- ・「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」では、肯定的評価が 61.5%と、昨年度に比して 7.2 ポイント下降した。自分の生き方や将来という言葉が児童にとって抽象的であり、授業のなかで感じ取ることが難しいのかもしれない。
- ・「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」では、肯定的評価が 66.2%と昨年度に比して 6.5 ポイント下降しており、肯定的評価が最も低い「区立中学校に関する情報が提供されている」という内容と同様、今後はより小中連携の工夫が求められる。

否定的回答（「あまり思わない」「思わない」）の多かった項目



⑤ 全体的評価

全体的に児童アンケートの回答を見ると、「学習」と「生活指導」に関する項目で肯定的回答が高い数値であった。児童は安心して学校生活を過ごしていることが感じられ、大変評価すべきことである。

また「先生たちに相談できる。」では、肯定的評価が 77%と昨年度に比してマイナス 1.6 ポイントと、若干下がったが、77%の児童が教員たちを信頼し相談できていることは一定の評価に値する。また、児童が相談すべき悩みがない、もしくは他に相談できる人がいるのであればこの数値はそれほど問題ないとも言えるが、何かあれば教員へ相談できるという安心感を持って生活できる児童が増えるよう、今後も努力を続けていきたい。

2.3. 保護者アンケート回答結果について

【回収率について】

今年度の保護者全体の回収率は 65%と昨年度の 31%より 34 ポイントも上がった。一般的なアンケートで 65%の回収率は非常に高いと言える。

昨年度本報告書にて提案した PTA との連携を実践し、学校からの連絡だけでなくクラス単位でもクラス委員よりアンケート回答を促してもらうことにより、劇的に回収率が上がったと考えられる。今後も、より有効なアンケート結果が得られるよう取り組んで頂きたい。

また、学年ごとに見ると 1 年生の保護者の回収率は 80%と、関心の高さが見受けられた。

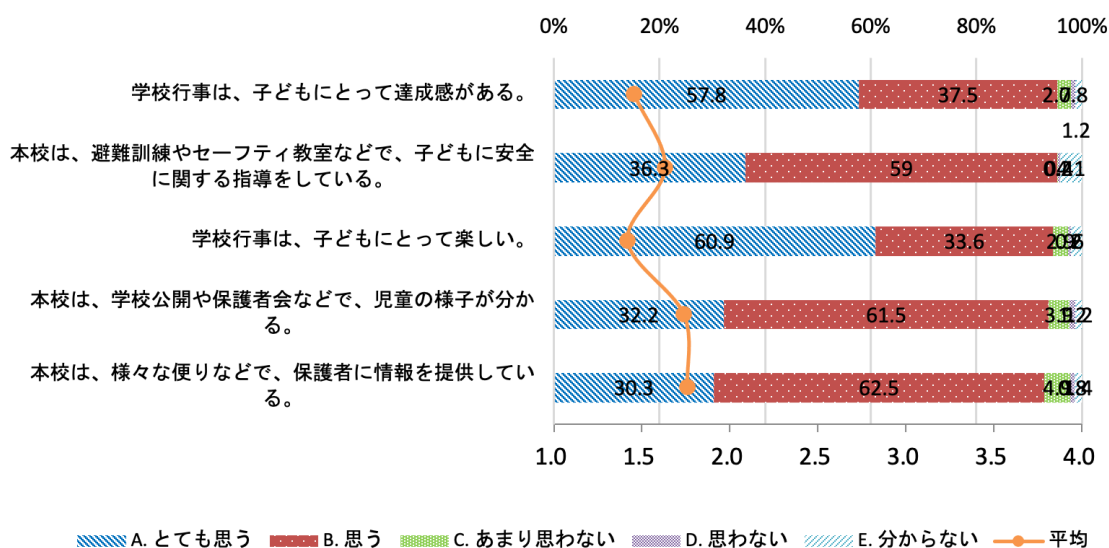
【アンケート評価について】

33 のアンケート項目のうち、20 項目で 80%以上の保護者が肯定的評価をした。肯定的評価 80%未満が 12 項目、50%未満が 1 項目だった。

①肯定的回答が多かった項目（90%以上）

- 肯定的回答が多いものとして、「学校行事は、子どもにとって達成感がある」（95.3%）、「学校行事は、子どもにとって楽しい」（94.5%）の結果から、学校行事が充実し、感動を呼ぶ体験ができていることの表れと考える。教員の方々の努力がここに示されているのではないだろうか。
- 「本校は避難訓練やセーフティ教室などで、子供に安全に関する指導をしている。」の肯定的回答が 95.3% と多いことから、学校が安全に配慮していることを保護者は認識していると思われる。
- 「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」や「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」といった項目も高評価を得ているのも、学校と保護者の距離の近さの表れといえる。また年に数回、土曜授業の日に“たもラジ”という校長と PTA 会長によるラジオ放送が行われている。生徒の日常がわかる内容や防犯、イベント情報などを知ることができ、風通しの良い学校であることが感じられる。

肯定的回答（「とても思う」「思う」）の多かった項目



②教職員について

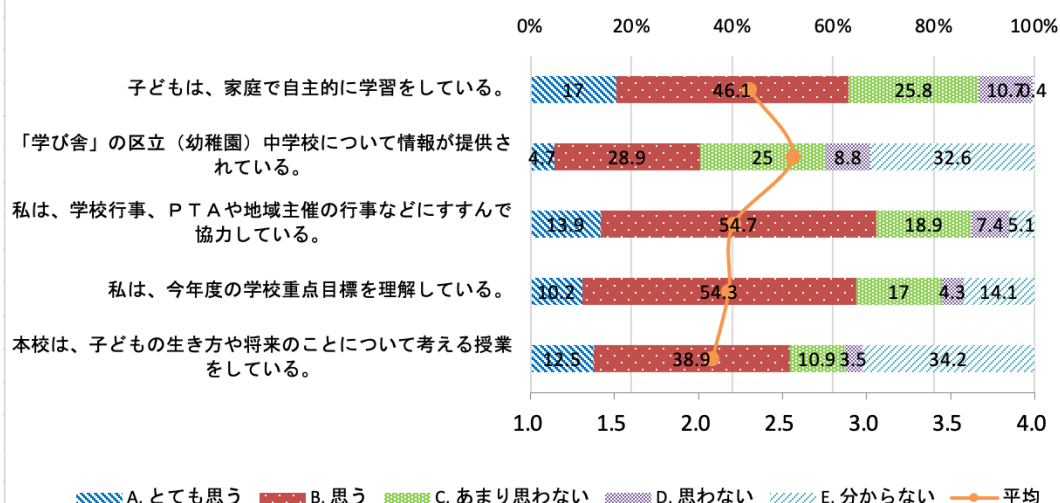
「本校は、子どものことを相談しやすい」項目では昨年度 82.2% より 4 ポイント上昇し、86.2%もの保護者が肯定的な評価を示した。また「本校は、丁寧に指導している」項目も 87.7%と高評価を得ており、これらは教員への信頼度の表れであり、教員の方々の誠意と努力の賜物であると考え。

安心して子どもを預けられることが保護者の願いなので、その点からも学校への信頼度が厚いという評価を得たことは大変評価すべき項目である。

③否定的な回答が多かった項目

- ・「子どもは家庭で自主的に学習をしている」が 63.1%という結果であったことから、家庭学習の習慣が十分とはいえない側面があるように見受けられる。
- ・「学び舎の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている」（33.6%）は、毎年数値の低い項目である。保護者には伝わりにくい面もあるので、保護者会などの機会をとらえて、学び舎についての理解を促し、情報をわかりやすく伝えていくことが課題だと考える。ただし、実際には区立中学との交流や合同クリーン活動などは行われており、6年生の中学校説明会では中学校を実際に訪れ、中学生からレクチャーを受ける機会もある。高学年になるにつれ、児童がこれらの情報を保護者に伝えていない可能性も考えられる。これは同質問に対して「わからない」と回答した保護者が 32.6%いたことから推測できる。直接保護者に説明および情報提供していくと同時に、できれば家庭内での会話で情報共有することも望まれる。また、コロナ禍以前には行われていたイベントで中学生との交流を保護者が間近で見る機会がコロナ禍以降減っていることもあり、この数値は致し方ないともいえる。中学校の情報を保護者も望んでいるはずなので、有効な情報が提供できるよう工夫していくことが望まれる。
- ・「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」という項目では、肯定的評価は 51.4%、わからないと答えた保護者が 34.2%となった。実際に生き方や将来のことについて考える授業は行われているが、その授業の目的と内容を児童から保護者へ伝える機会が少ないのではと考える。どんな授業を行ったのかなどの家庭内での会話が増えることが望まれる。それと同時に保護者会を通じて学校からも生き方や将来のことについて考える授業の概略などを伝えていただくと意識を持って子どもへ対応できると考える。

否定的回答（「あまり思わない」「思わない」）の多かった項目



2.4. 地域アンケート回答結果について

【回答率について】

回収率が48%となっており、昨年度57%から更に9ポイント下降した。サンプルに偏りがあるが、ほとんどの方が満足していると考えて良いのではないかと。

コロナ明け以降、地域の方が学校行事に参加できる機会が増えているので、様々な機会をとらえて回答していただける地域の方への協力を仰ぎ、回収率を上げるための更なる工夫が必要だろう。

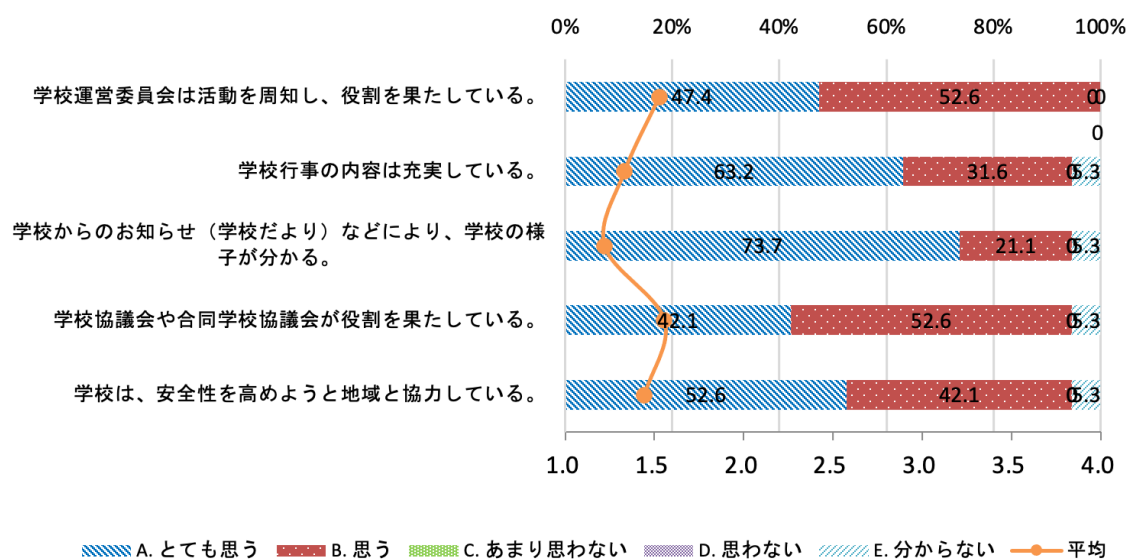
【アンケート評価について】

14のアンケート項目のうち6項目で90%以上、8項目で70%以上の地域の方々が肯定的評価をした。

①昨年度より肯定的回答の数値が上がった項目（6項目）

- ・「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がわかる。」（8.4%上昇）
- ・「学校のホームページに、学校からのお知らせや中学生活の様子が分かる情報が掲載されている。」（18.1%上昇）
- ・「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している。」（8.3%上昇）
- ・「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。」（9.0%上昇）
- ・「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。」（19%上昇）
- ・「学校は安全性を高めようと地域と協力している。」（13.7%上昇）

肯定的回答（「とても思う」「思う」）の多かった項目



②昨年度より肯定的回答の数値が大幅に下がった項目

- ・「通学している子どもたちは、交通ルールを守っている。」では肯定的回答が89.5%と昨年度95.2%から5.7ポイント下降となっている。ただ、昨年度より低い数値ではあったが、90%近い児童がルールを守っていると感じているということは大変評価できる数値と言えるだろう。

2.5. 教員用アンケート回答結果について

「私は、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している」という項目の数値が若干低かったが、今年度の地域行事「クリーンデイ」への教員の参加者が学校行事と重なったため、少なかったことがヒアリングであきらかになった。（当日は、世田谷子ども駅伝が大蔵競技場で開催されたため、校長、担当教員、学年の教員は子どもたちの対応、応援に行っていた。）

教員の方々が地域行事へ参加されることで子どもたちや地域の方々も喜ぶため、参加していただけるとうれしい反面、ボランティア活動なので、ご自身の家庭の時間を保ちつつ、無理のない範囲での参加が望まれる。

3. 今後に向けて

児童・保護者・地域の方々・教員用アンケートの調査結果をふまえて、今後に向けての課題を示す。まず、最初に児童対象の「学習について」の項目のうち、今年度初めておこなった「学ぶことが楽しい」という項目以外については、昨年度に引き続き90%前後の肯定的評価が得られていることは特筆すべきである。学校教育の最も重要な使命は、授業を通して児童に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことである。学習に関する多くの項目で高評価を得たことは、本校の教職員による授業改善に関する不断の努力の成果だと受け取ることができる。

ただ「学ぶことが楽しい」という項目については75.5%と若干低かったことについては、知的好奇心を育むような授業を展開するなど今後検討の余地があるだろう。あわせて昨年度よりはわずかに上昇したが「学校が好き」という項目が80%を切っていること、「学校生活は楽しい」という項目も昨年度よりポイントを下げた点についても、児童が様々なことに主体的に取り組み学校生活を楽しめるような工夫が求められる。

また児童の教員に対する評価や信頼の高さも特徴だといえる。児童と教師の信頼関係は、教育現場において非常に重要な役割を果たす。信頼関係があってこそ、児童の学習意欲や学校生活の満足度、さらには本校の目指す学校像でもある「誰にでも居場所がある学校」にもつながることから、児童が教員を信頼できていることは高く評価できる。この点は、保護者も教職員について「丁寧に指導している」と認識し、また「子どものことを相談しやすい」と評価していることから、学校側の日々の真摯な取り組みが結果として表れていると言える。

キャリア教育や小中連携に関する項目は、児童、保護者両者とも芳しくない結果となっており、キャリア教育の難しさや、区立中学校への進学に対する関心の低さ、小中連携の不足が課題として挙げられる。多様性の時代を生きる子どもたちが、将来の社会生活や職業生活を円滑に送るための基礎を築くためにも、昨今本格的なキャリア教育の促進が求められているが、実際のところ課題も多い。教員の専門性を高めるとともに、総合的な学習の時間などを通して、カリキュラムの体系化を柔軟に進める必要がある。また学校内だけで完結するのではなく、地域や保護者との連携を通して職業体験や説明会などを実施し、具体的に将来について考える機会を増やすことが重要となる。

全体を通して、保護者や地域との連携を通して様々な取り組みに尽力されている結果として、総合的に高評価を得たと言っているが、今後とも時代の変化に対応しながらも児童が主体的に学びに取り組み自己肯定感が高まるような教育活動を精力的に展開していただきたい。

以上